

## 第28回(令和4年度)めぐろシティカレッジ講座について

### 第28回(令和4年度)めぐろシティカレッジ講座 -各講座の趣旨-

1. 目黒学パート28 「食とめぐろ」その① 「前期」  
5. 目黒学パート28 「食とめぐろ」その② 「後期」 (コーディネーター:山崎 憲治)

SDGsの達成目標の一つに「飢餓をゼロに」があるが、「飽食」日本の現状では、遠い課題だと思いがちだ。しかし、食糧の自給率37%、食物の廃棄が年間620万tに上ると報告されることを見れば、日本においても深刻な課題であることは間違いない。飢餓とその対極にある飽食、よりうまいものへの追求が、同時に存在するのが日本の「食」を巡る課題になる。食を通して、地域の課題に迫ることができる。目黒という地域には、多くの特色ある飲食店がある。これらを知ることでも地域を探る方法になる。時間軸で食糧問題を論じることも問われている。日本の歴史を振り返れば、多くの飢餓が生まれている。歴史から見る飢餓を問い直すことも重要だ。夏休みを終えた新学期、大幅に体重を減らした児童が見られるという。子どもの1/6が貧困家庭で育っている。絶対的栄養不足の状況にある子どもにとって学校の給食が最大の栄養補給源だった。それが長期休暇でストップした結果がみられる。1930年代東北で教職員が始めた貧困家庭の子どもに対する食事の補助、それが現代の都市の貧困家庭に再現されている。学校給食の歴史と現状を捉え直すことも、現代の食問題をj知る道になる。

2. 地球を知る その① 「前期」  
6. 地球を知る その② 「後期」 (コーディネーター:堀 信行)

地球温暖化、異常気象が叫ばれ、地球上の災害が絶えない。地震、火山噴火、早魃、洪水、土砂崩れ、山火事など、身近であれ、遠隔の地であれ、大規模でも被害も激甚なものが珍しくない。「現在の地球は何かおかしい、異常だ」と考える人は多く、私たちが不安にさせている。一方、人類は地球で誕生し、地球に生まれてきた存在である。しかし、私たちは案外、地球のことを知らないのではないかと思う。そこで本講座では、「地球を知る」をテーマに、「地球の時間と空間」をたどりながら、「人類は地球をどう捉え、どんな環境を生き抜いてきたのか、そして子孫に如何なる地球を残そうとしているのか」について、少し立ち止まって考えてみたい。

3. 日本の古層にある精神世界を探る その① 「前期」  
7. 日本の古層にある精神世界を探る その② 「後期」 (コーディネーター:森慎一郎)

表面からは見えにくくなっている古い日本の精神世界を探ってみましょう。それは地方に残る伝承、伝説や神話の世界に残っているかもしれませんが。あるいは今はそれが何を意味するのか分からなくなっている、古代人が残した様々な形あるものの中にあるかもしれません。それらをたどることによって、我々の心の中にも眠っているかもしれない興味深い精神世界を見つけるのが目的です。

4. 見て回る 江戸・東京 その① 「前期」  
8. 見て回る 江戸・東京 その② 「後期」 (コーディネーター:佐藤 洋、生井 貞行)

本講座の軸は「江戸・東京今昔物語」であります。江戸の始まりから今日の東京の現状に至るまで「江戸・東京」はいかなる変遷をたどっているのでしょうか。その変遷過程を”東京湾の開発の歴史・東京の変貌する風景に見られる日本近現代の痕跡”を縦軸にし、”江戸の遊び・江戸の鬼門・大衆文化の象徴としての「寅さんの伝言」そして「八百屋お七」などの出来事を横軸にして「江戸・東京」を丸ごと理解することが本講座の目的です。講座は基本的に講義が先行し、その講義内容を現地巡検により確認し、理解を深めるという形ですすめます。

特別集中講座「東日本大震災から11年を経て、被災地はどう変わったか？  
——新たな可能性を求めて」  
※詳細は令和4年度講座開講後にご案内します。 (コーディネーター:山崎 憲治)